

## 「ベトナム海外研修」事前学習会①

日時：平成27年9月18日(金) 15:50～17:10

場所：岐阜県立関高等学校

参加：ベトナム研修参加予定者＋希望者(合計17名)

講師：中部学院大学 馬場 美穂 准教授 (写真 大学 HP より)



### 講義テーマ：病院を覗いたら ～ ベトナムの医療制度と看護師 ～

中部学院大学の馬場美穂先生(岐阜大学大学院 医学系研究科、看護学修了。総合病院の脳外科、整形外科病棟から在宅支援事業所まで、医療・福祉の幅広い現場に精通されている。2014年看護リハビリテーション学部看護学科准教授に着任、現在に至る。)に出張講義をして頂きました。馬場先生は、JICA(国際協力機構)事業ではプロジェクトメンバーとして、ベトナム・ダナン市の看護職を対象にした老年ケア・キーパーソンの養成にも携わっておられます。よって、その事業の概要から実際の現場の実情までを詳しく講義して頂きました。



ベトナムでは経済の発展に伴い、生活様式が変化し、医療技術の向上によって高齢化が進んでいます。今後は、生活習慣病などの慢性疾患や精神疾患の増加が見込まれます。これに伴い高齢者に対する老年ケア(老年看護・介護の知識と技術)の取り組みが求められています。そのベトナムに日本で確立されている老年ケアを移転することで、患者のQOL(Quality Of Life)を向上させることができます。さらに、私たちの関市では、市内の病院・大学等が連携して看護・介護職員の資質向上を図ってきた実績があり、さらに刃物の生産技術を生かした医療機器・介護機器等を紹介ができることが分かりました。10月11日出発のベトナム研修では、ダナン医療技術大学の訪問・見学が予定されており、生徒達はその事前研修として熱心に先生の講義を聞いていました。



出張講座の様子



馬場先生に質問する関高生の様子

## ＜講演会に参加した生徒の感想＞

今回の話を聞いて日本の裕福さ、ベトナムの現状がよく分かり、とても胸が痛くなりました。私たち日本人は病気、怪我をしたら普通に病院に行き、薬をもらい、なにも不安に思うことなく、完治することに中々感謝できていないなあと思いました。また、一番驚いたことは、医療の乏しさから家族や学生さん達が、患者さんを看病しているということです。日本では考えられないことであるし、それでも人を救おうという気持ちに何か協力できることはないかと深く考えることもできました。日本などの先進国から、医療機械が送られたり、アメリカのモデル人形を使ったりと、医療技術を積極的に受け入れようとするベトナムに対して日本、アメリカだけではなく、世界中が世界の医療として、もっと支えていけるといいなあと思いました。今すぐベトナムが日本みたいに、裕福になるわけではないですが、しっかり日本などの先進国がベトナムなどの発展途上国を支え、世界の医療状況を少しでも変える状況になるといいなあと思いました。



ベトナム研修に行くにあたって今回の講座を聞かせてもらいましたが、今まで私が考えていたベトナムとは違ったことが多くて驚きました。何よりベトナムと日本との医療の差は歴然だなあと思いました。ベトナムの現在の医療は日本の50年前と同じだってそんなことあるのか、看護師になるのに国家試験はないのか、ベトナムの医療制度に不安を感じました。また、看護師の数が足りなくて看護学生に手当をさせるのは恐ろしく思いました。ベトナムの方はそれが普通だと考えているのかもしれませんが、もうそれを黙認していれば何が起きてても何も言えないなあと思います。そして何より家族にかかる負担が大きすぎる。看護師で働ける人はたくさんいるのに、病院で働かせてもらえないその現状をクリアしないことには何も出来ない気がします。出張講座だけでもこれだけ驚いたのに研修に行ったらどうなるのか。私は将来医療系に進みたいのでしっかり下調べをしてベトナム研修に臨みたいです。

今日はベトナムの勢いを目の当たりにした時間でした。今まで、あまりテレビとかで見たこと無い国だったけど最近よく見かけます。それは日本と同じ様な問題に直面しているからだと思いました。だから、ベトナム人は日本に興味を持ってきているんだと思うし日本もベトナムを身近に思っているんだと思います。ベトナムは日本の50年ぐらい前の様な感じと学んだけど急に発展してきているから同じ問題に直面していると思いました。ベトナムの子供達は外で思いっきり遊んでいると聞きました。だから、その様子を自分の目で見てみたいです。SGHの調べ学習は難しくなりそうだなあ〜と思いました。今まではベトナムでも遊ばなくなった事が体力低下の原因かと思っていたけど、今回で出産時の事も関係ありそう！と思いました。子供の体力は医療と密接しているように思いました。

日本とベトナムでは少子高齢化であるという面ですごく似ており、ベトナムでは日本で30～40年前に使われた器具が使われている。一部の地域で先端の器具が使われているにもかかわらず患者さんの人数が多すぎてお医者さんや看護師さんの数が足りていないために救える命に限りがあるのに加え、一般の人が医療行為を行っていることにとても恐怖を覚えました。

地域格差が広がり、田舎でお年寄りの方だけが残されていることがあり、外出できない方々のためにお医者さんを呼ぶにはそれなりのお金が必要なため、お金持ちの方しか十分な医療を受けられるベトナムの現状は悲しいなと思いました。また、そのような所では孤独死というのがよくあるのかなと感じたので次の機会に是非聞いてみたいと思いました！

講話を終えて、僕はベトナムの医療というのはまだまだ進んでいないということを感じました。例えば、日本が30年～40年前に使っていた医療器具をベトナムで今、使っていることや、患者数に対する医療スタッフ不足などの問題点があることを初めて知りました。今回の講話で僕が一番衝撃を受けたのは、病院にいる患者の命が危ない時に家に帰されるということです。このことは日本では考えられないことだと思います。しかし、ベトナムはそんな事が起きてしまうほど患者の数が多く、どんどん患者を病院に入れなければやっていけない状況だということが分かりました。またもう1つ驚いたことがあります。それは日本とベトナムは医療という面で深く関わっているということです。中部学院大学がベトナムに医療技術を伝授していることや、ベトナムの学生が日本の介護というものを学んでいることを僕は初めて知りました。他の面でもベトナムと日本がどんな関わりをしているか、調べていきたいと思いました。今回の講話でベトナムの事をより分かったし、ベトナムに早く行きたくなりました。いいお話を聞くことが出来てよかったです。

ベトナムは、日本と同じく少子高齢化が進んでいることが分かりました。また、日本の医療と比べるとまだ発展しきれていない部分がありました。設備が十分でなかったり、職員が不足しているため学生が練習も兼ねて行っていたり、自宅での介護では家族が担っていたりと、日本では考えられないような現状があり、悲しくなりました。私たちは十分に適切な治療を受けることができるけど、それはベトナムでは当たり前ではないことなので、感謝しなければならなかったと思います。私は、福祉系の方に興味があるのでこういう医療も日本との違いを知っていきたくと思いました。先進国からの援助もあり子供たちが生きられることに感動しました。でも、成長して感染症になったりするのは辛いと思いました。治療はもうできないと判断された人も家に帰されたりしてしまって、そこでもうあと少ししか生きられないことが分かるのはとても悲しいことだと思います。私は以前 JICA に行ったこともあり、海外への支援も勉強したことがあるけど、私も将来外国の子供たちや、苦しんでいる人を助けられるようなことをしたいと思いました。



## 「ベトナム海外研修」事前学習会②

日時：平成27年9月28日(月) 13:30～15:00

場所：岐阜県立関高等学校

参加：ベトナム研修参加予定者(合計15名)

講師：カイ INDUSTRIES 常務取締役 辻 宏介 様



カイ INDUSTRIESの辻常務を講師に招き、  
ベトナム工場を見学するための事前学習会を開催しました。

(内容)カイ INDUSTRIES株式会社では、生産拠点拡充の一環として、「カイ ベトナム有限責任会社」を2006年2月にハノイ市に設立。設立の目的は、日本及び米国への輸出が好調のため、美粧製品関連の主力工場である上海貝印(本社:上海市)の生産キャパシティが一杯となり、新たな生産拠点強化が求められていたことによるもので、日本向けの女性用カミソリや薄型のリーフ爪きり等の生産をしている。工場があるタンロン工業団地は、ハノイ市とその北部にあるノイバイ国際空港とを結ぶ幹線道路沿いにあり、ハノイ市から車で30分、ノイバイ空港からは13分と好



立地のほか、団地内に税関があり、その日のうちに通関手続きが可能な地域である。この利便性が高く評価され、現在日本の大手メーカーが多数生産拠点を構えている。(左上:記念品を頂きました!(同社製品) 右上:カミソリを手にとって説明をする辻常務)

(感想)関高校では、ベトナム研修の一環として、10月12日(月)にカイ INDUSTRIES株式会社ベトナム工場の訪問・見学を予定。地元の伝統産業である刃物は生徒達にとって大に関心があり、刃物の生産技術を生かしてベトナムでどのように運営されているのか、見学をととても楽しみにしている。ベトナム研修へ参加する生徒達はメモを取りながら熱心に聞いていました。



熱心に話を聞き、メモを取る関高生の様子



ベトナム工場(公式HPより)

## 「ベトナム海外研修」事前学習会③

日時：平成27年10月5日(月) 16:50~18:10

場所：岐阜県立関高等学校

参加：ベトナム研修参加予定者(合計15名)

講師：中部学院大学 人間福祉学部長 飯尾 良英教授  
人間福祉学部2年 チャン ヤ ブー先生



### ベトナム出身の TRAN GIA BUU 先生 (チャン・ヤ・ブー先生) から ベトナムの概要とベトナム語を教えてくださいました。

(内容)ベトナムの面積は331.698㎏日本の面積377.900㎏であり、全体として高温多雨、熱帯モンスーン気候です。人口は約9,250万人、言語はベトナム語、通貨はドン(1円≒約184.717ドン)です。私たちが訪問予定のハノイ(首都)は歴史的な建物が多く、世界遺産のタンロン遺跡、ハノイ大聖堂などがある。ダナン(訪問予定)はベトナムで一番住みやすく、中部地方で最大の商業都市であることを教わりました。次に挨拶の方法を学びました。ベトナムではおはよう・こんにちは・こんばんはの区別が無く、一日を通して「チャオ」と挨拶し、目上の人に対しては「シンチャオ」と言う。ありがとうは「カムオン」、はいは「ヴァン」、すみません・ごめんなさいは「シンローイ」と言う。実際に声に出して練習したり、先生にテストしてもらうなどして挨拶の仕方を学びました。さらに、ベトナム語で自己紹介にチャレンジ。「私の名前は〇〇です。年齢は17歳です。高校2年生です。研修旅行で日本からベトナムに来ました。」と練習したが、とても難しくなかなか思うように口にすることができませんでした。そのほか、ブー先生が日本に来てとても驚いた事(カルチャーショック)など、ユーモアを交えて話して下さい、私達がベトナムを訪問する際の注意点などを説明して下さい、終始和やかな雰囲気の中でベトナム語を学ぶことができました。



通貨のドンを紹介している様子



JICA の説明をする飯尾教授